



東北支部の釣り大会

株式会社 三水コンサルタント/東北支社 関端流耶



1. はじめに

今年入社しました関端と申します。以下の寄稿は、諸先輩からの聞き取り及び水コン協東北支部の長年の資料から抜粋し述べることにします。

東北支部は、平成2年3月会員会社41社にて設立されました。会員数は、平成11年度の56社をピークに減少の一途をたどり、東日本大震災、一般社団法人、公益社団法人への移行があり、平成30年度は高橋支部長を中心に20社が東北地域におけるサービス・活動を行っています。

支部の釣り大会は、設立年を第1回とし約30名の参加者から始まり、東日本大震災後3年間の中断期間を経て平成26年度から大会復活、平成30年度は夏の第41回、先日開催された秋の42回大会合計2大会で約60名の参加があり毎年大変盛り上がっています。

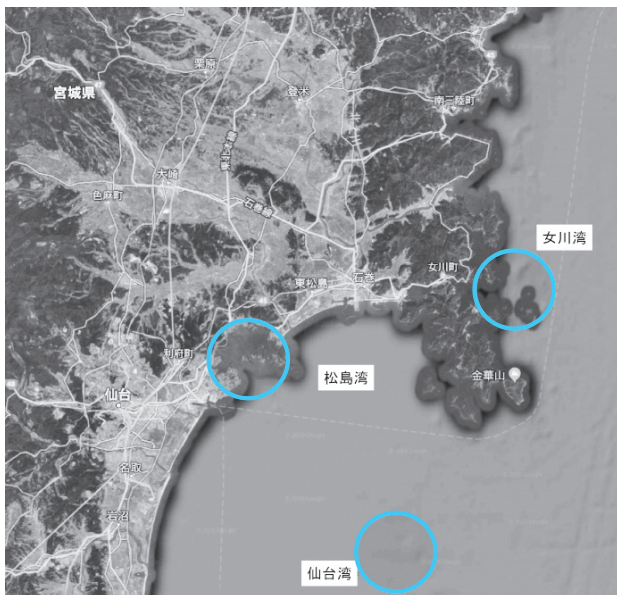


図-1 釣り場

2. 釣場と対象魚

(1) 松島湾のハゼ

第1回大会の釣り場所及び対象魚は、全国的にも有名となった(今年10月のBS某釣り番組で松島湾が放送されました)松島湾のハゼ釣りです。しかし、この頃から

松島湾のハゼがほとんど姿を見せなくなり、釣果としては優勝者が10匹程度とあまり釣れなかったようです。



写真-1 ハゼ

(2) 女川湾のカレイ・アイナメ

前年度までの釣果を精査し、平成5年の第4回大会から、場所を女川湾に移し、対象魚をカレイとアイナメに変更しました。

女川湾での大会は長く、東日本大震災前年の平成22年まで続きました。震災前は初夏の頃と秋真っ盛りの年2回実施しており、釣り場も港から近いので仙台から遠くにも関わらず多くの参加となりました。

女川湾は、三陸リアス海岸の一部であり入り組んだ海岸線となっているため、魚種が多くカレイ、アイナメ以外タコ、タイ、メバル、他あまり食卓に上がらない魚等が釣れます。対象魚以外は、いくら釣れても釣果にはなりません、珍しい魚でサイズが大きい場合、特別賞の対象となります。



写真-2、3 カレイとアイナメ

(3) 仙台湾のカレイ・アイナメ、松島湾のハゼ

平成23年の東日本大震災後3年間の中断後、平成26年に釣り大会が再開され、釣り場を仙台湾に移しました。女川町の復興のため女川湾でもよかったです。海底の地形が変わったのかどうか分かりませんが、震災後の釣果が思わしくないとの情報があったようです。出港は朝5時、約1時間船に揺られながら釣りの準備をします。対象魚は、女川湾と同様カレイ、アイナメで仙台大型漁礁といわれるとおり数・大きさとも女川湾を上回ります。(ただし船長さんの腕によります)。ただ、水深が50m以

上あり、オモリは40号以上必要となるため結構1匹釣るのに体力が消耗します。

仙台湾では、釣り大会再開後女川湾と同様年2回開催していましたが、平成29年から、秋の大会は松島湾のハゼ釣りに変更し行うようになりました。自分が参加したのは今年からで海釣りも初めてですが、それなりの釣果でした。

3. 釣果発表

午後1時頃、船長さんの笛の合図で釣りは終了です。満足した、もう少しだった、全然だめだった釣り師と様々です。通常、船は2隻で出港するため釣れた船、釣れなかった船が出ます。魚の活性によっては、船に関係なく釣れますが、なかなか難しいようです。船から上がると、今まで頭の中がぐらぐらしていたのがウツのように正気に戻ります。

さて、計量タイム。大きいごみ袋にいれたり、コンビ



写真-4 記念写真

ニの袋だったりと様々です。最近は、統一した袋で計量しているようです。賞品は、今では商品券ですが、以前は高級クーラーボックス、高級釣り竿などがあったそうです。賞品を選ぶ幹事の方々の苦勞が目に見えるようです。

成績は、優勝、第2位・・・とび賞、ブービー、大物賞、特別賞、参加賞とあり、参加者は発表のたびに一喜一憂します。

釣果発表後、解散となりますがその前に記念写真。

4. おわりに

対象魚は、基本的にハゼ、カレイ、アイナメです。釣りの楽しみは、釣りそのものもそうですが、釣った魚の調理です。ハゼは天ぷら、カレイは写真のような唐揚げまたは大きさにより刺身・煮付け、アイナメは刺身・なめろうが妥当なところと思います。

釣りに行った回数は、今年の大会を含めまだ3回（今年3回）でまだまだです。仙台の秋は真鯛の季節、諸先輩からいろいろ学びまた来年協会の釣り大会に参加し楽しみたいと思っています。

魚は、ブランドの金華サバをはじめヒラメなどいろいろ釣れますので、遠くからでも足を運んでみてはいかがでしょうか。



写真-5～7調理方法